



施 工 手 順	施 工 内 容	使用機材・使用材料
<div data-bbox="89 174 347 210" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特 殊 処 理</div> <div data-bbox="213 439 242 474" style="text-align: center;">↓</div>	<p>◎上記【チェックポイント】に挙げたような特殊処理が必要な場合は適切な処理をして下さい。</p> <p>※研削機を使用した場合、下地がかなり粗された状態になります。</p> <p>※シール・ワックス等の既存材料を除去する際に、溶剤など使用した場合はその成分が残らないように洗浄・除去して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃道具</li> </ul>
<div data-bbox="89 560 312 595" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">清 掃</div> <div data-bbox="213 1061 242 1097" style="text-align: center;">↓</div>	<p>◎施工面に残ったゴミや汚れ、油分、特殊処理で発生した粉塵や溶剤成分などを除去して施工に適した状態にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特殊処理までは必要ないが、汚れているという場合はポリッシャーやデッキブラシで十分に洗浄をし、浮き上がった汚れや洗剤成分が残らないように十分にすすぎます。排水の関係上、すすぎが十分にできない場合は完全に拭き取って下さい。</li> </ul> <p>・ 洗浄後、完全に乾燥させます。</p> <p>※火気の使用可 時間制限があり、火気の使用可であればバーナーで強制乾燥をします。</p> <p>※熱し過ぎの下地破損注意。</p> <p><b>※清掃不足は接着不良や硬化不良の直接の原因となります。</b> <b>必ず施工前に清掃を行い、施工部分がきれいな状態から施工を開始してください。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドレスデン A-1 (温浴施設の床、石材、タイル)</li> <li>・ ドレスデン A-3 (温浴施設の床、石材、タイル)</li> <li>・ ガンクリン</li> <li>・ ポリッシャー</li> <li>・ デッキブラシ</li> <li>・ ホース</li> <li>・ 他洗浄具一式 (推奨)</li> <li>・ 工業用ドライヤー</li> <li>・ 送風機</li> <li>・ バーナー</li> <li>※使用可・不可要確認</li> </ul>
<div data-bbox="98 1424 354 1460" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下 地 処 理</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスキング</li> </ul> <p>◎アルコール脱脂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工面に残った汚れ/粉塵/油分/ホコリ等、アルコールを浸み込ませたウエスなどで拭き取り、施工面を触っても殆ど何も付かない程度に仕上げます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスキングテープ</li> <li>・ アルコール (イソノール)</li> <li>・ ウエス</li> </ul> <p>※ウエス・アルコールは殆どの工程で使用する可能性が有ります。下地状況によっては大量に使用する場合がありますのである程度余裕を持った量を準備してください。</p>
<div data-bbox="89 1765 363 1800" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">脱 脂</div> <div data-bbox="213 1827 242 1863" style="text-align: center;">↓</div>		

施 工 手 順	施 工 内 容	使用機材・使用材料
<div data-bbox="89 174 367 210" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">マスキング・養生</div> <div data-bbox="212 244 240 284" style="text-align: center;">↓</div> <div data-bbox="89 465 367 501" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プライマー塗付</div> <div data-bbox="89 512 331 542" style="color: red; font-size: small;">※金属下地の場合のみ</div> <div data-bbox="212 1106 240 1146" style="text-align: center;">↓</div>	<p>◎マスキング・養生の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工部分以外への材料の付着を防ぐため、床面・壁面に必要に応じて設置します。</li> <li>※材料塗布の際、ローラーの遠心力で材料が散ることがあるので、新設のガラスや壁には特にご注意ください。</li> <li>※施工環境次第では、下地処理や洗浄工程でも必要に応じて養生をして下さい。</li> </ul> <p>◎施工場所が金属下地の場合は専用プライマーをウエスやタイルカーペット等に浸み込ませて、擦り込むように塗り広げて下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ホットプレートに油を引く要領で、薄塗で大丈夫ですが、必ず全面にいきわたるよう丁寧に塗布して下さい。プライマーが塗られた場所は、濡れ色になりますので、塗布したかどうか確認できます。</li> <li>※プライマーを塗布した場所は5～60分以内にドンタッチフロアを塗布して下さい。</li> </ul> <p style="color: red; font-weight: bold;">※注意事項※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマーは必ず一旦ウエスや小さな布にとってから塗布して下さい。直接かけたりしますと白濁などの原因となります。</li> <li>・プライマーはサラサラな液体ですので、ウエスに取る際は出し過ぎにご注意下さい。</li> <li>・プライマーは空気中の水分と反応してしまいますのでボトルのキャップは施工中もその都度閉め、開けたままにしないで下さい。</li> <li>・環境、対象材質、表面の状態により接着力が変わってきますので小さな場所でテスト施工を行って性能確認の上でご使用ください。</li> <li>・プライマーが残った場合は、よく口の部分を拭取ってから蓋をして保管して下さい。拭取らなかった場合、次回使用时蓋が手で開けられない場合が有ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスキングテープ</li> <li>・養生テープ</li> <li>・マスキングテープ</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用プライマー</li> <li>*MSプライマー（金属下地用） 1本あたり5㎡施工可能</li> <li>・ウエス</li> <li>・タイルカーペット （使いやすい大きさにカットしたもの）</li> </ul>

施 工 手 順	施 工 内 容	使用機材・使用材料
<div data-bbox="87 174 363 212" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">材 料 準 備</div>	<p>◎混合前にA剤を必ず攪拌してください。</p> <p>※A 剤（主剤）には骨材が入っております。</p> <p>使用前に攪拌していただかないと骨材が沈んだままの状態になり通常の防滑能力を発揮することができません。</p> <p>A 剤の容器を振って攪拌を行ってください。</p> <p>A 剤とB剤を 10：1 の割合で混合します。別途カップを用意し、計量混合してください。</p> <p>混合後、なるべく早く材料を塗布してください。</p> <p>A200g B20g 混合した場合、約 1㎡施工できる目安となります。</p> <p>1.1kg (A+B) で 5㎡施工可能です。</p> <p>施工は二度塗りを推奨しておりますのでA 100g B10g の分量から施工して下さい。</p> <p>上記の分量を二度塗りし、1㎡の施工完了となります。</p> <p>※必ず慣れてから 1 度の混合重量を増やしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カップで計量した混合材料を、塗料などで使用する受け皿等に材料を移し、中毛ローラー（極細目）で塗りつけるように塗り広げて下さい。</li> </ul> <p>※1 箇所大量に材料を落とすとムラになる可能性がありますので少しずつ広げて塗り付けて下さい。</p> <p>※塗料と同じ感覚の塗り方とは異なります。</p> <p>※施工場所の面積の大小にかかわらず、二度塗りを推奨しております。一度で塗ってしまった場合、仕上がりにムラが出る可能性があります。</p>	<p>ドンタッチフロー （ A 剤 + B 剤 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 計量器 1 g 単位の電子計量器を推奨します。</li> <li>• 材料混合カップ</li> <li>• 混ぜ棒</li> <li>• 受け皿（パット）</li> <li>• 中毛ローラー（極細目）</li> </ul> <p>※材料混合カップ 受け皿 中毛ローラー</p> <p>以上は複数用意して下さい。</p> <p>付着したドンタッチフローが硬化しますので定期的に交換する必要があります。</p>
<div data-bbox="87 1471 363 1509" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">材 料 塗 布</div> <div data-bbox="212 1778 240 1816" style="text-align: center;">↓</div>	<p>【塗り方のコツ】</p> <p>※中毛ローラーに材料を含ませ（表面にはべたべたつけない）、軽くローラーを転がし、材料を塗り付けていきます。全体にまんべんなく軽く材料を塗布させた後、徐々に力を入れていき全面に塗りつけていきます。スポンジ部分から材料を出していくイメージで材料を下地に塗りつけて下さい。最初に 4 割塗布してから徐々に力を入れて残り 6 割塗布するイメージで仕上げるときれいにムラがなく仕上げることができます。下地に付着した材料はタテヨコタテヨコと均一に仕上げてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 送風機</li> <li>• 中毛ローラー</li> </ul>

<p>使 用 器 具</p>	<p>※中毛ローラーに関して</p> <p>本製品は水溶性なので、本剤を塗布後、すぐに中毛ローラーを洗っていただければ繰り返しご使用になれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 中毛ローラー洗浄時の注意点</li> </ul> <p>バケツにためた水などで洗わず、流水でローラーの中まで洗う。</p> <p>再度ご使用の際は、完全に乾いた状態の中毛ローラーを使う。</p> <p>(洗浄直後の中毛ローラーは水分を吸収しているためご使用になりません。硬化不良等の原因となります。)</p> <p>中毛ローラー洗浄、乾燥後、毛先に付着した汚れを完全に落としてからご使用ください。</p> <p>(本剤に汚れやごみが混ざる場合がございます。)</p>	
<p>乾 燥 硬 化 ・ 完 成</p>	<p>◎乾燥硬化は温度と湿度により異なりますが、</p> <p>通常<b>夏場 2 時間、冬場 3 時間</b>で通常歩行は可能です。(25℃時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 送風機使えば乾燥が促進されます。(2-3 割程度)</li> </ul>	

施工マニュアルに基づいた施工であっても、施工に関しては一切の責任を負いません。  
 施工に不安を感じる場合は当社または、認定施工代理店での責任施工をお勧めします。